

キウイフルーツの新品種

「片浦イエロー」

を育成しました

足柄地区事務所

農業技術センターでは、果肉色が黄色で年内から食べられるキウイフルーツの新品種「片浦イエロー」を育成しました。

神奈川県では県西部を中心にキウイフルーツの栽培が行われておりますが、品種は貯蔵性・追熟の均一性に優れる「ヘイワード」種がほとんどです。

しかし、消費者の嗜好の多様化の観点から「ヘイワード」種以外の特色のある品種の導入が望まれており、神奈川らしい直売向けキウイフルーツの新品種育成に取り組みました。

そこで平成6年に中国系キウイフルーツ品種「アップル」種を母親にして交配を行い、それぞれの系統の形質調査の結果、平成13年に、果肉が黄色で収穫してから食べられるまでの時期が早い特長をもった系統を選抜しました。そして平成20年3月13日に、この系統が「片浦イエロー」として品種登録(第16475号)されました。

特性

「片浦イエロー」の主な特性としては次のことがあげられます。

- 果肉色は黄色であざやか。
- 果実は重さ100g程度で、「ヘイワード」種よりやや小さく、果形は丸みを帯びており、果実表面の毛の密度は少なくつるつるしている。
- 着花性に優れており、結実量も多い。
- 果実の内容成分は糖度で15～16%位で、「ヘイワード」種より酸が少なく、口当たりが良い。

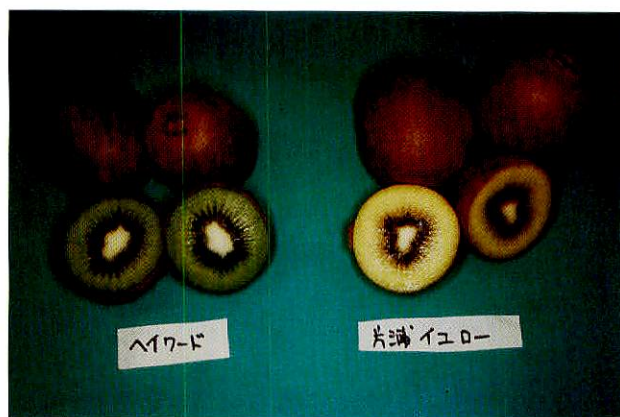


図1 ヘイワード(左)と片浦イエロー(右)



図2 片浦イエロー着果状況

今後は地域の特産物として直売等、地産地消に向けて振興していきたいと考えております。

また「ヘイワード」種とは異なる点も見受けられるので、栽培方法の確立に向けて調査・研究をすすめていきたいと考えております。